

# **第3回 高梁市総合計画策定 有識者会議**

2025/11/5

議事項目	概要
1. 第2回有識者会議意見振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要意見と対応方針</li> </ul>
2. 各種アンケート調査結果概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生アンケート調査</li> <li>・(外国人雇用)企業ヒアリング調査</li> <li>・大学生アンケート調査(進捗報告)</li> </ul>
3. 人口ビジョンについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口ビジョンの見直し方針と想定シナリオ</li> </ul>
4. 第2回有識者会議踏まえた人口ビジョン骨子及び後期基本計画の重要視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改訂版人口ビジョン及び後期基本計画の重要視点(幸福度等)からの重要事項の整理</li> </ul>
5. 後期基本計画 施策体系案及び重要プロジェクト・各施策方針における主要施策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期基本計画の施策体系及び重要プロジェクト</li> <li>・主要施策案の協議</li> </ul>
6. 横断プロジェクトロジックモデル案構築イメージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少抑制策(子育て世代の転出抑制、若年層の転入促進、未婚率の低減等)に関するロジックモデル案のイメージ</li> </ul>
7. 計画策定全体スケジュール	

# 1 第2回有識者会議 主な意見と対応方針

主要意見		今後の対応方針
テーマ	内容	
人口減少の現状認識と課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>出生数の減少は顕著であり、外部からの転入による人口増をいかに実現するかが鍵</li> <li>未婚率推移を踏まえ、特に転出が著しい年代層の女性の転出要因を分析して手を打つ必要有り</li> <li>市内で働くものの、市外に居住する層の声を聞くことで、転出の背景を把握できるのでは</li> <li>地元で生まれた方、特に女性が希望する職種があるのかどうかの把握が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若年層・特に女性の転出抑制に向け、女性が活躍できる職場環境整備と雇用機会の創出</li> <li>転出・市外居住者を対象とした追跡調査・ヒアリングを実施し、転出理由、Uターン阻害要因を具体的に把握する</li> </ul>
総合計画における重要視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>幸福度向上も重要だが、まずはコストを抑えた取り組みや優先順位付けが求められる</li> <li>就業先があっても「精神的な安心・生活のしやすさ」が伴わなければ定着は難しい</li> <li>高梁市ならではのライフスタイル（結婚～出産・育児・仕事の循環モデル）を提示できると良い</li> <li>「人口減少を前提とした計画」と「人口を減らさないための計画」双方が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画において、優先順位として、人口減少抑制への寄与が大きい若年層や女性に重点を置く</li> <li>「高梁でどんな生き方ができるか」を示すライフデザイン型の施策提案（例：結婚・出産・子育て支援一体型施策）を検討する</li> <li>人口減少を抑制する取組と適応する取組の両軸で計画を設計する</li> </ul>
実効性ある調査と市民意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>正しく施策を打つために、アンケートの取り方に工夫が必要</li> <li>市の人口減少が進む現状をもっとオープンにして、人口が1万人になった場合どのような影響があるのか等、市民全体の危機感と当事者意識を高めることが重要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>統計的な妥当性を確保できる水準の回答数を得るため、調査・アンケートの実施方法について工夫を行い、その手法の見直しを図る</li> <li>若年層、転出層との接点づくりを行う</li> <li>人口減少の現状と影響を視覚的・定量的に市民へ共有し、まちの将来像を「自分ごと化」できる情報発信を推進する</li> </ul>

## 2 各種アンケート調査概要

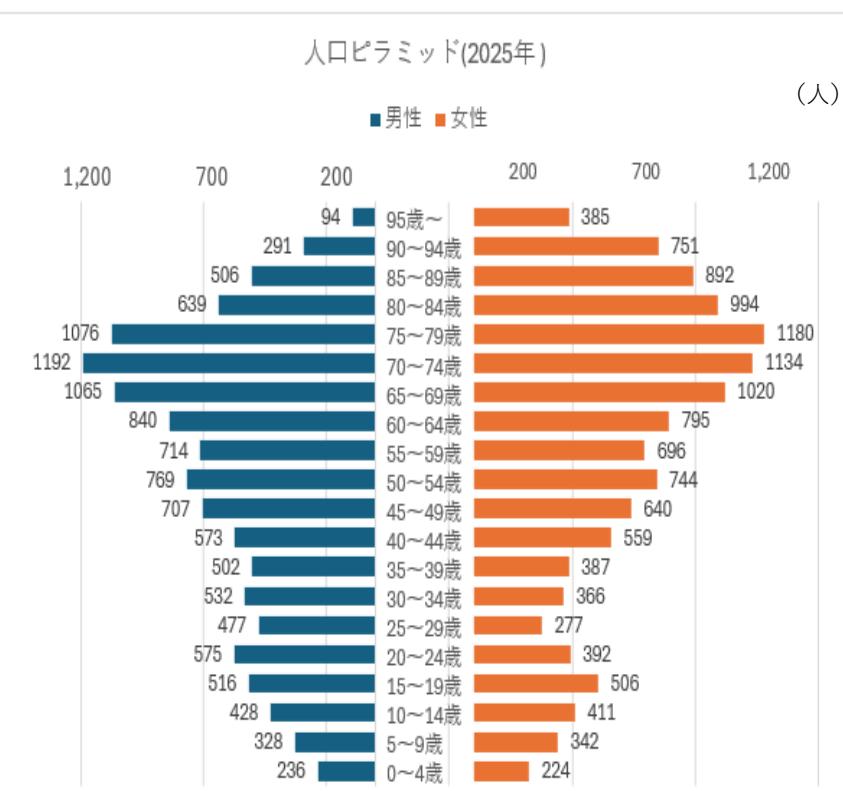
後期基本計画及び次期総合戦略策定に向けて、人口減少対策や情勢の変化（外国人労働者の増加）を踏まえた施策立案に向け、下記の調査を実施（調査結果については別紙参照）

項目	調査概要
高校生アンケート	<p>【目的】将来を担う高校生が捉える高梁市の現状や課題の把握 【対象者】市内4校（高梁高校、高梁城南高校、報告學舎高校、宇治高校 ※定時制高校除く）の全学年、866名 【回答数（回答率）】625（72.2%） 【主な設問】基本属性、地域への愛着、進路意向、居住意向、市との関わり意向</p>
大学生アンケート	<p>【目的】市内定着（就職）を促進するためのニーズや障壁の明確化 【対象者】吉備国際大学 高梁キャンパス（社会科学部、看護学部、アニメーション学部、人間科学部、保健医療福祉部、心理学部）の全学年、807名（留学生除く） ※保健医療福祉部、心理学部は学部再編前の学部になるが、改編前入学の学生は当該学部に所属） 【回答数（回答率）】198（24.5%）※10月24日時点 【主な設問】基本属性、地域への愛着、就職意向、居住意向、市との関わり意向</p>
外国人ヒアリング	<p>【目的】外国人が地域住民として安心して暮らし、地域の担い手として活躍できるまちを目指すうえでの課題やニーズの把握 【対象企業】武田鑄造(株)、マイコー(株)、(特養)まごころの里 備中、日軽形材(株) 【対象者数、属性（国籍・年代）】11名 （国籍）インドネシア：6名、ミャンマー：2名、ベトナム：3名 （在留資格）技能実習：3名、特定技能：8名 【主な設問】地域への愛着、居住意向、地域との関わり意向</p>

調査結果は別紙参照

### 3 人口ビジョン 将来人口推計 見直し方針

趨勢人口（このまま何もしなければ）の長期推計を提示した上で、高梁市として目指す状態を見据え、その実現に向けた人口シミュレーションのシナリオを提示します。



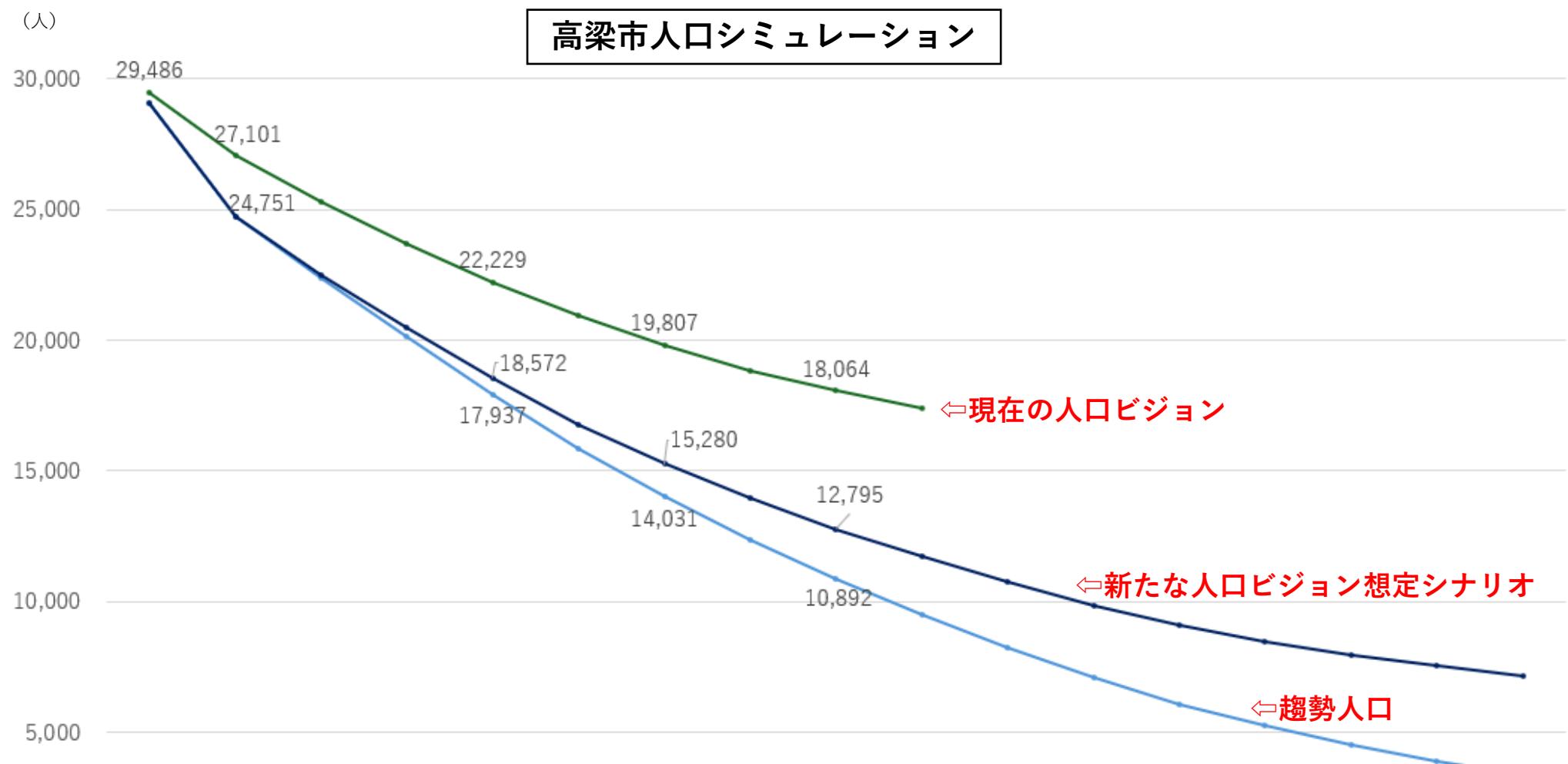
#### 【現状】

- ・急激な人口減少に加え、年少人口が少なく、今後その割合がより一層減少することが予想されます。  
⇒今の地域社会の機能の維持が困難になることが見込まれます。

#### 【目指す状態】

- ・高梁市総合計画の都市像である「健幸都市たかはし」が打ち出すように、「住民が健康で安心して暮らせるだけでなく、生きがいを持ち、地域への愛着や誇りを感じながら心豊かに生活できるまち」を実現したいと考えています。  
⇒将来にわたり地域社会を支える人のつながりと活力が維持されることが不可欠です。
- ⇒人口ビジョンにおいては、年齢や男女の構成が偏ることなく持続可能な人口バランスを保つことを重視します。
- ⇒出生率向上+社会増（特に若年女性と若年層(20代)）が重要であり、当該層の増加を見込んだシナリオを設定  
⇒後期基本計画の施策体系にも反映

### 3-1. 長期人口ビジョンシミュレーション



	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年	2070年	2075年	2080年	2085年	2090年	2095年	2100年
・趨勢人口	29,072	24,751	22,380	20,143	17,937	15,862	14,031	12,384	10,892	9,520	8,240	7,094	6,092	5,245	4,525	3,918	3,391
・前期人口ビジョン	29,486	27,101	25,290	23,703	22,229	20,925	19,807	18,860	18,064	17,404							
・後期人口ビジョン	29,072	24,751	22,479	20,494	18,572	16,789	15,280	13,961	12,795	11,734	10,756	9,870	9,117	8,494	7,987	7,547	7,155

### 3-2. 長期人口ビジョンシナリオ設定

見直し後の人ロビジョンにおいては、**出生率向上 + 若年女性人口の社会増 + 若年層の社会増**を組み合わせたシナリオを適用する想定

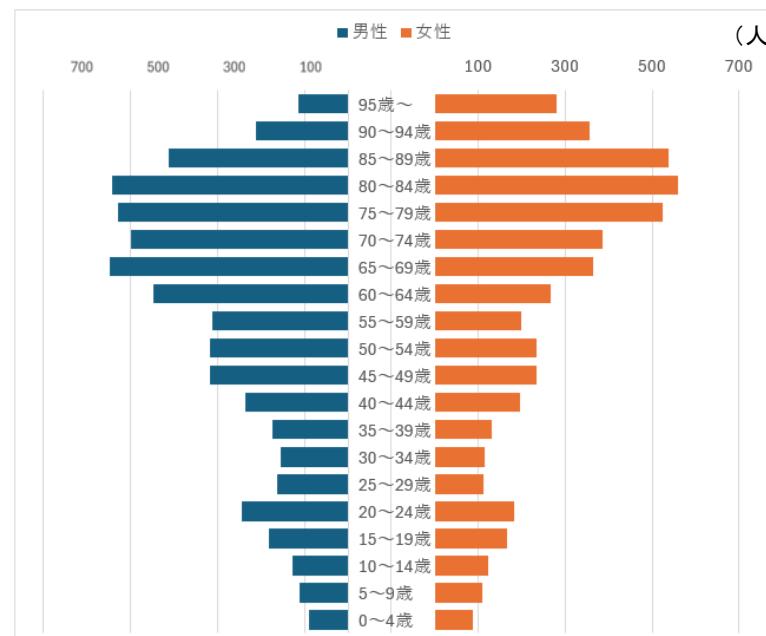
項目	設定方法	狙い
出生率向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>出生率は県に従い、<b>2050年に出生率1.8、2060年2.07</b>に到達するように設定</li> </ul> <p>※0~4歳人口 2050年時点で107人増（趨勢人口249人⇒356人） 2060年時点で124人増（趨勢人口177人⇒301人）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県の同じ水準の出生率を目指す</li> <li>人口が急激に減少する中で、社会増だけではなく、<b>自然増を目指す（前提）</b></li> </ul>
若年女性人口の社会増	<ul style="list-style-type: none"> <li>シナリオ1の出生率向上に加え、<b>女性の出産年齢人口(20~44歳)の純移動率を改善した場合</b>の推計を実施 ⇒2025年以降、5歳階ごとに5%改善 (例：2050年時点)</li> </ul> <p>20~24歳：43人改善（趨勢人口230人⇒273人に改善） 25~29歳：21人改善（趨勢人口138人⇒159人に改善） 30~34歳：41人改善（趨勢人口197人⇒238人に改善） 35~39歳：64人改善（趨勢人口234人⇒298人に改善） 40~44歳：80人改善（趨勢人口236人⇒316人に改善）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内に定着又は転入する結婚/出産を考える年齢層の女性増ことで、間接的ではあるが、<b>市全体での未婚率の低下、出生率の向上に繋げる</b></li> </ul>
若年層の社会増	<ul style="list-style-type: none"> <li>シナリオ1の出生率向上に加え、<b>20代の男女の人口移動に関して、転出超過が縮小し、改善していくことを前提とした場合</b>の推計を実施 ⇒2025年以降、20~24歳で10%、25~29歳で5%改善 (例：2050年時点)</li> </ul> <p>男性 20~24歳：64人改善（趨勢人口303人⇒367人に改善） 25~29歳：36人改善（趨勢人口202人⇒238人に改善） 女性 20~24歳：53人改善（趨勢人口230人⇒283人に改善） 25~29歳：29人改善（趨勢人口138人⇒167人に改善）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>若年世代の定着、若しくは転入を図り、<b>生産年齢人口且つ子育て世代になりう若年世代を増やす</b> ⇒市内の大学生の市内定着促進を強化する</li> </ul>

シナリオ1、2、3を組み合わせて推計を実施（純移動率の最大値を採用）  
⇒人口ビジョン

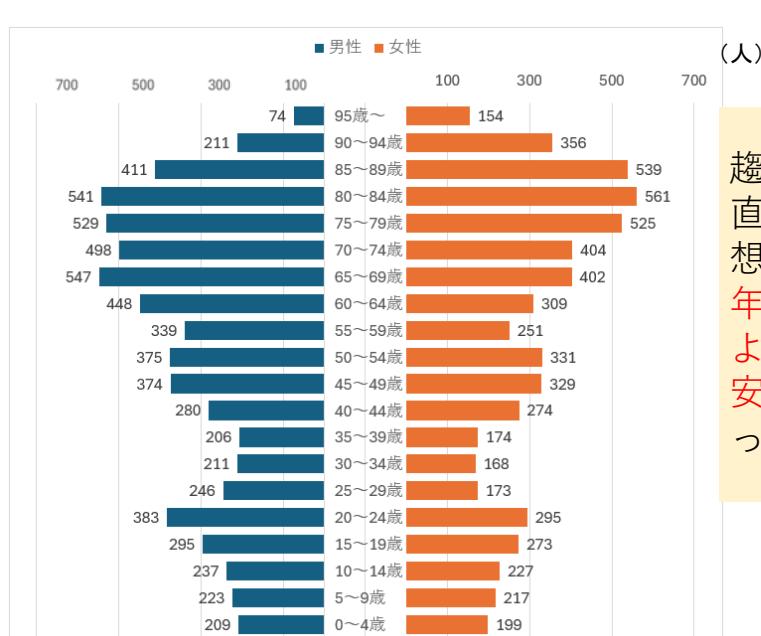
### 3-3. 人口ピラミッド

#### 趨勢人口、また見直し後の人ロビジョン想定シナリオにおける2060年、2100年時点人口ピラミッド

趨勢人口（2060年）

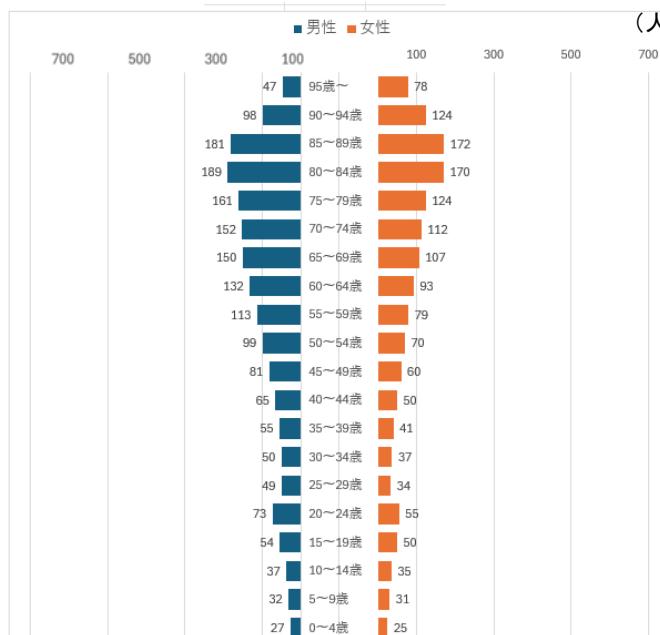


見直し後の人ロビジョン想定シナリオ(2060年)

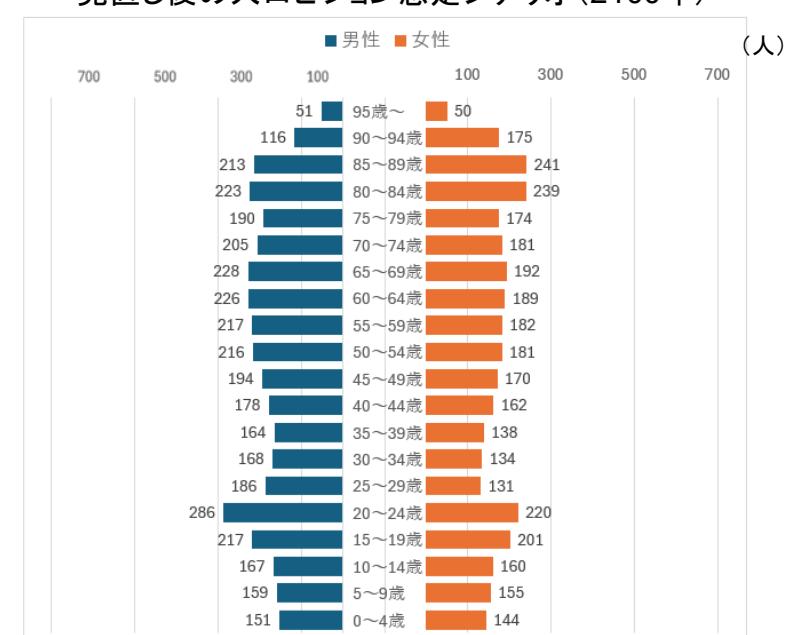


趨勢人口と比較して見直し後の人ロビジョン想定シナリオでは、年齢層別の人ロ分布および男女比の観点から安定した人口構造になっています。

趨勢人口（2100年）



見直し後の人ロビジョン想定シナリオ(2100年)



## 4 後期基本計画・次期総合戦略の重点ポイント

### 国の動向(地方創生2.0)

“ひと”中心、市民及び市外からの  
参画を活かすまちづくり

### 厳しい財政状況下での まちづくり推進

選択と集中  
メリハリの効いた施策体系

#### 《後期基本計画・次期総合戦略のポイント》

- “ひと”中心のスタンス
- 人口減少に向かう中、市民が健康で幸せに暮らし続けるために、あらゆる分野で人口減少の抑制とともに、市民の幸福感の向上に寄与する施策に取り組む。

横断的プロジェクトとして、人口減少対策・幸福度向上に関する施策の位置付け

#### 人口減少下での幸福度の高いまちづくり

- ・多様な働き方の実現
- ・住環境の充実 等

#### 人口減少の抑制(人口ビジョン)

- ・若年者(20歳代)の転出抑制
- ・子育て世代女性の転入促進・転出抑制
- ・出生数の増加(未婚率の低減)

### ○ 幸福度の向上を目指すうえで



#### 「幸せの4つの因子」

慶應大学 前野隆司氏が提唱する「幸せの4つの因子」  
幸福感を高めるための具体的な行動について示唆。

#### 1. やつてみよう因子(自己実現と成長)

自分自身の目標や夢に向かって挑戦することで、  
自己実現と成長を促すもの。  
主体性を持って行動することで幸福感を高める。

#### 2. ありがとう因子(つながりと感謝)

他者とのつながりや感謝の気持ちを大切にすること。  
多様なつながりや、利他性(他人のために貢献したい  
気持ち)が強い人ほど幸福につながる。

#### 3. なんとかなる因子(楽観性と柔軟性)

困難な状況でも楽観的かつ前向きに捉える力。  
ストレスへの対処能力だけでなく、新しい挑戦への意  
欲も高めるのです。幸福感とチャレンジ精神を育む重  
要な要素。

#### 4. ありのままに因子(独立性と自分らしさ)

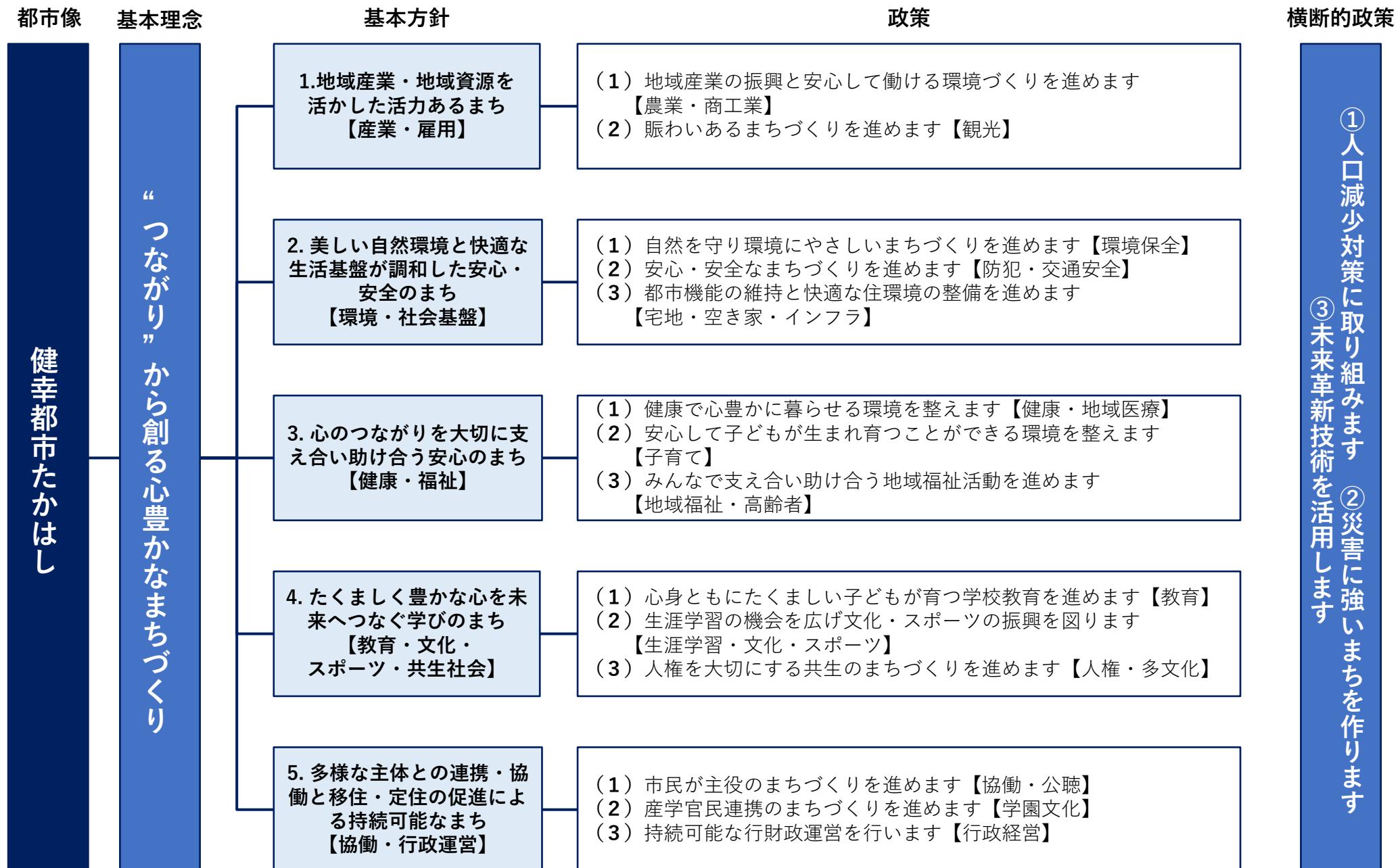
自分らしく生きることや独立性を尊重する姿勢を指す。  
他人との比較ではなく、自分自身の価値観に従いな  
がら生きることで幸福感が高まる。

- ・自分の幸せ
- ・まわりの人の幸せ
- ・生活への満足

地域の幸福(Well-  
Being)

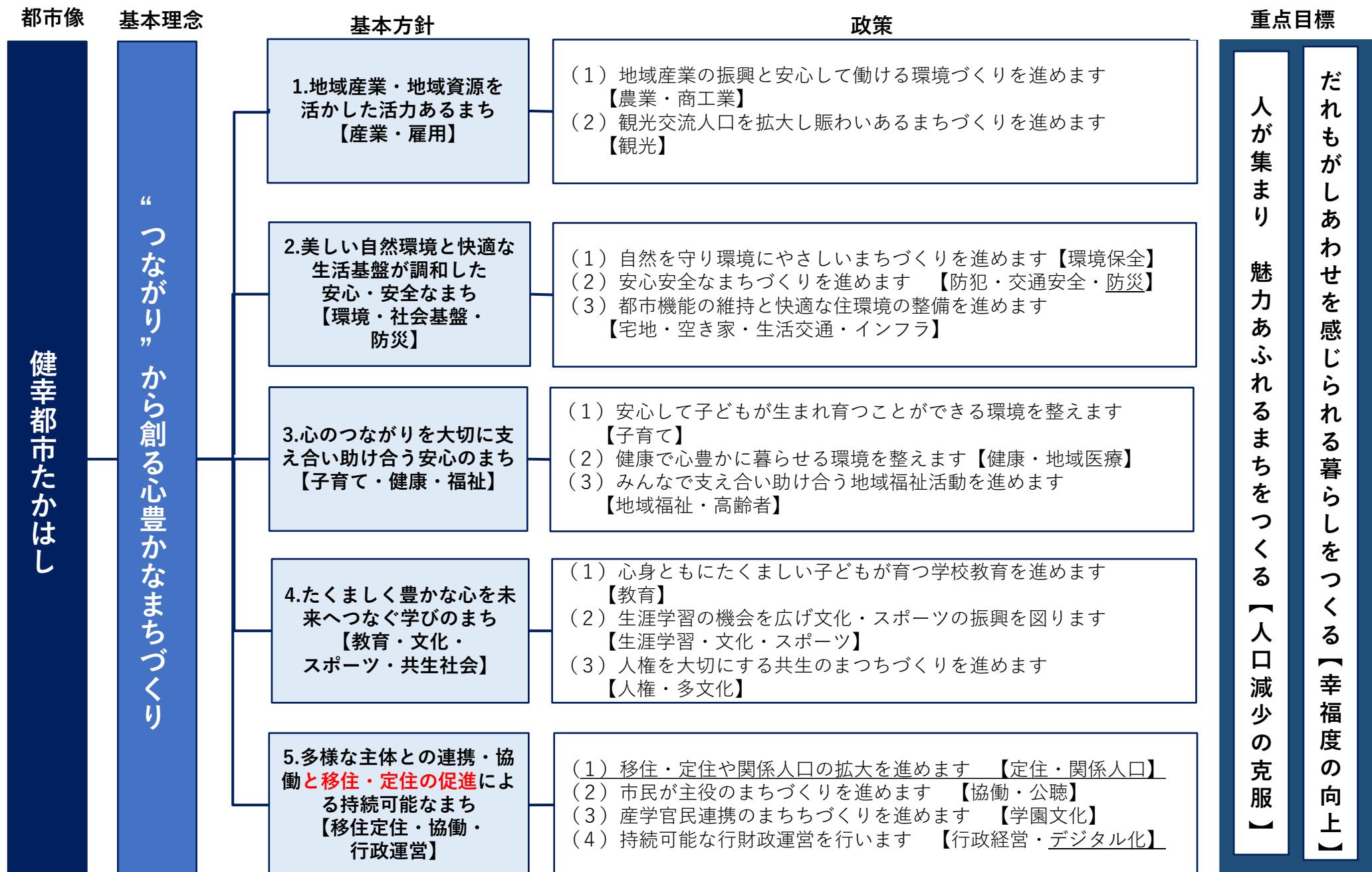
## 5 後期基本計画 施策体系

### ・前期基本計画の構成



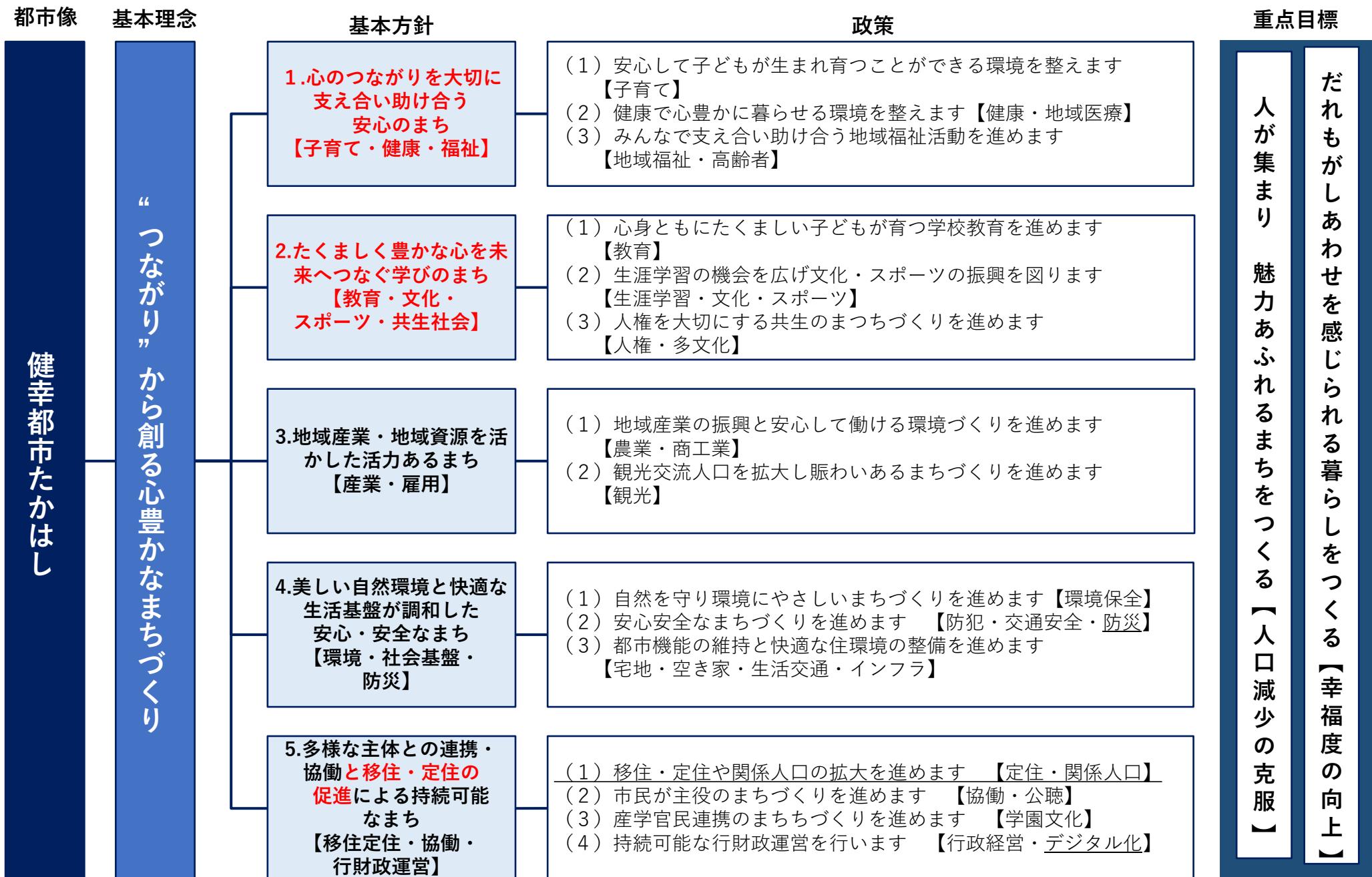
## 5 後期基本計画 施策体系

【案1】 横断的施策は廃止。防災を基本方針2へ、定住・関係人口とデジタル化を基本方針5へ統合。「人口減少抑制策」と「幸福度の向上」を「重点目標」に位置づけ。(横断プロジェクトの施策は後述)



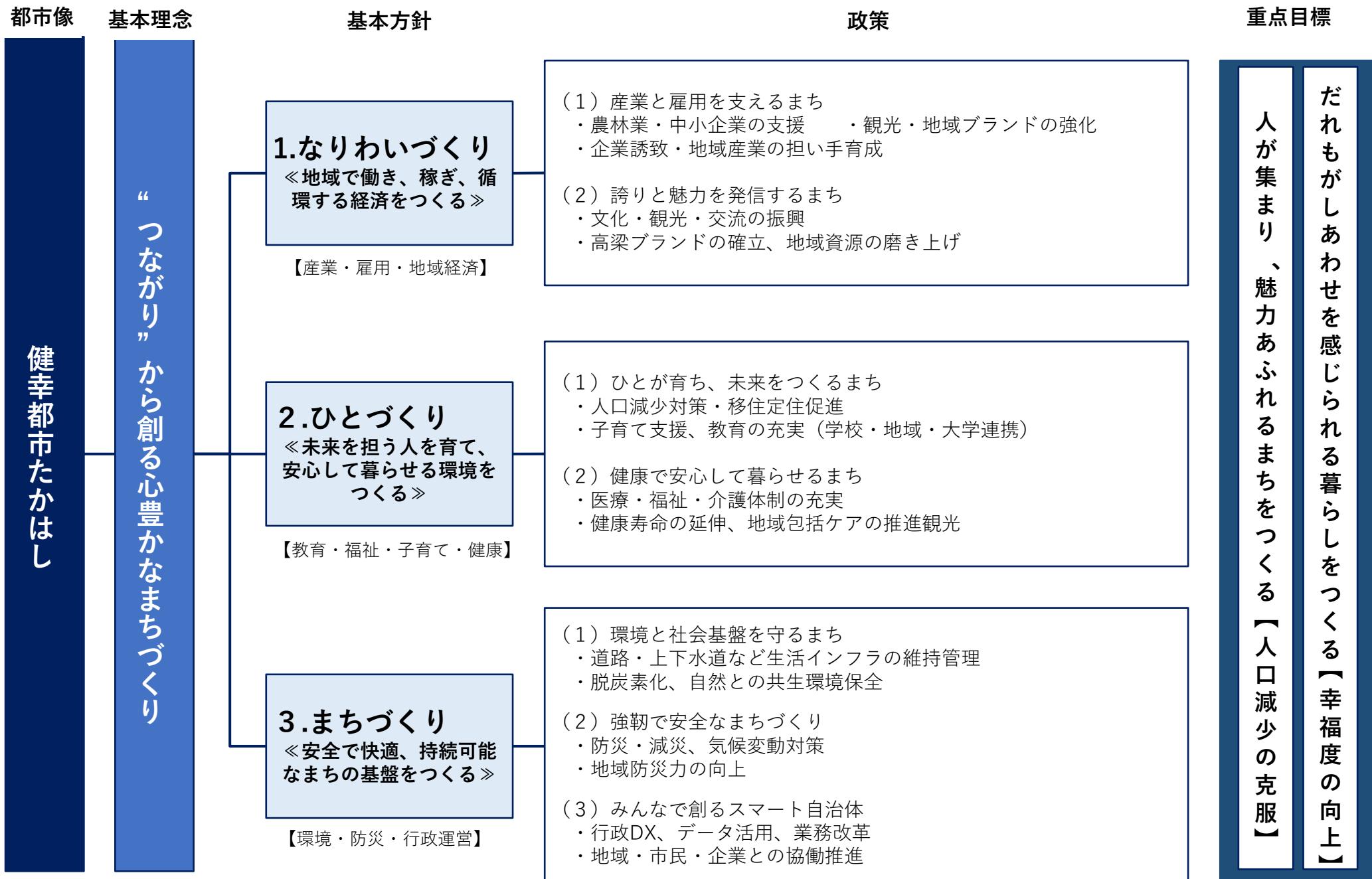
## 5 後期基本計画 施策体系

【案2】横断的施策は廃止。防災を基本方針4へ、定住・関係人口とデジタル化を基本方針5へ統合「人口減少抑制策」と「幸福度の向上」を重点目標位置づけ。健康・福祉・教育に関する基本方針を上位に位置付け。



## 5 後期基本計画 施策体系

【案3】横断的施策は廃止。「人口減少抑制策」と「幸福度の向上」を、重点目標位置づけ。  
基本方針を「なりわいづくり」、「ひとづくり」、「まちづくり」の3つに整理。



# 5 後期基本計画 施策体系

- ・後期基本計画においては、各基本方針にまたがる取り組みとして「人口減少抑制策」と「幸福度の向上」を横断目標として位置付けます。また、各プロジェクトに紐づく「重点施策」は以下を想定しています。



## 重点目標（詳細）

### 重点目標①

#### 人が集まり、魅力あふれるまちをつくる【人口減少の克服】

##### 重点施策案

- 安心して子育てできる環境づくり
- 出会い・結婚の希望をかなえる
- シティプロモーションの強化
- 移住・関係人口の促進
- 女性・若年世代を中心とした多様な働き方の実現
- 若年層の郷土愛醸成、地域内就職の促進

### 重点目標②

#### だれもがしあわせを感じられる暮らしをつくる【幸福度の向上】

##### 重点施策案

- 若者が挑戦・学び続けられる環境づくり
- 質の高い都市環境・住環境の整備
- 心も体も健やかに過ごせる環境づくり
- 世代を超えた地域交流・支え合いの促進
- 自然、歴史資産の保全・文化の継承
- 多様性を認め、互いに尊重できる社会の実現

※幸福度に関する分析結果から見えた、個人の幸福度に影響を与える因子を基に施策案を検討

## 6 重点施策の詳細検討のイメージ 一政策ターゲット設定によるロジックモデル構築一

重点施策については、「人口減少の克服」「幸福度の向上」それぞれ、施策のターゲット及び得たい成果（指標）を明確にした上で、現状・課題を踏まえた施策を各担当課と詳細協議・検討予定

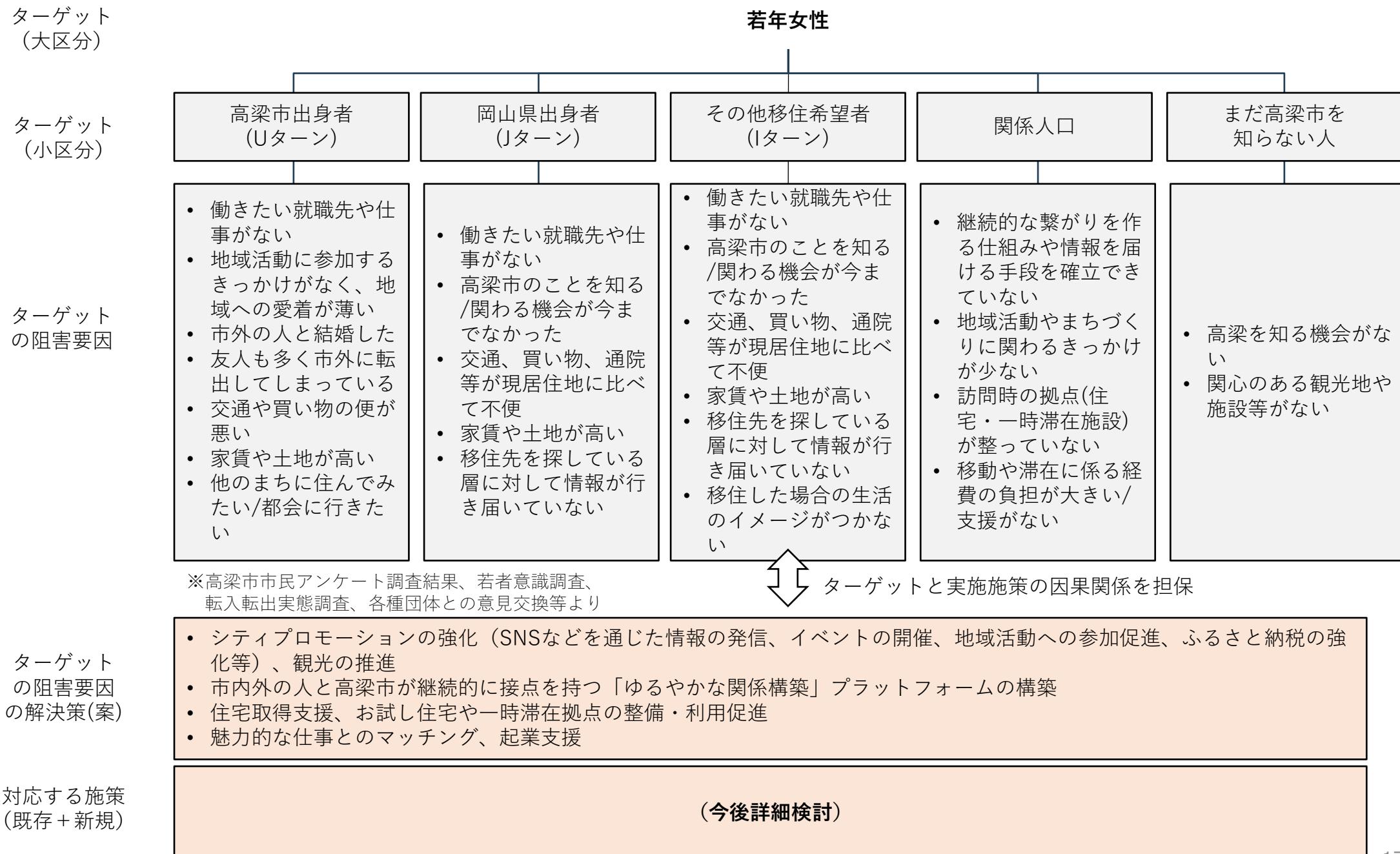
### 《人口減少対策に関する重点施策のターゲット設定（若年層の転出抑制・転入促進、未婚率の低減）》

人口シミュレーションにおけるシナリオ設定で、転入促進・転出抑制のターゲットとなるのは「20代の男女」「出産年齢人口（20-44歳）の女性」です。このターゲットにおいて、人口減少対策に関する施策を検討します。

※ただし「20代の男女」の転出を抑制するために10代後半からのアプローチが重要となるため、10代後半からを対象とした施策を検討。

シナリオ	シナリオ設定	狙い
シナリオ 1	<ul style="list-style-type: none"><li>出生率は県に従い、<b>2050年に出生率1.8、2060年2.07に到達するように設定</b></li><li>2050年時点で112人増（趨勢人口249人⇒361人）</li><li>2060年時点で126人増（趨勢人口177人⇒303人）</li><li>※0～4歳人口</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>県の同じ水準の出生率を目指す</li><li>人口が急激に減少する中で、社会増だけではなく、<b>自然増を目指す（前提）</b></li></ul>
シナリオ 2	<ul style="list-style-type: none"><li>シナリオ 1の出生率向上に加え、<b>女性の出産年齢人口（20～44歳）の純移動率を改善した場合</b>の推計を実施 ⇒2025年以降、5歳階ごとに5%改善 (例：2030年時点) 20～24歳：25人改善（趨勢人口477人⇒502人に改善） 25～29歳：20人改善（趨勢人口205人⇒225人に改善） 30～34歳：14人改善（趨勢人口265人⇒279人に改善） 35～39歳：19人改善（趨勢人口358人⇒377人に改善） 40～44歳：20人改善（趨勢人口390人⇒410人に改善）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>市内に定着又は転入する結婚/出産を考える年齢層の女性増することで、間接的ではあるが、市全体での未婚率の低下、出生率の向上に繋げる</li></ul>
シナリオ 3	<ul style="list-style-type: none"><li>シナリオ 1の出生率向上に加え、<b>20代の男女の人口移動に関して、転出超過が縮小し、改善していくことを前提とした場合</b>の推計を実施 ⇒2025年以降、20～24歳で10%、25～29歳で5%改善 (例：2030年時点) 男性 20～24歳：52人改善（趨勢人口600人⇒652人に改善） 25～29歳：28人改善（趨勢人口332人⇒360人に改善） 女性 20～24歳：51人改善（趨勢人口477人⇒528人に改善） 25～29歳：23人改善（趨勢人口205人⇒225人に改善）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>若年世代の定着、若しくは転入を図り、<b>生産年齢人口且つ子育て世代になりうる若年世代を増やす</b> ⇒市内の大学生の市内定着促進を強化する</li></ul>
シナリオ 4	<ul style="list-style-type: none"><li>シナリオ 1、2、3を組み合わせて（純移動率の最大値を採用）推計を実施</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>若年世代、出産年齢人口両方を増やすことで、<b>生産年齢人口の増加、未婚率の低下、出生率の向上（による年少人口の増加）に繋げる</b></li></ul>

## 重点施策：若年女性の転入促進 認知～移住までのステップによる分類



## 7 全体スケジュール

